

- 主要品目の代表産地で土壤の化学性・物理性の実態を把握し、生育・収量・品質への影響を調査。
- 土壤から持ち出された肥料成分を施肥で補給する、先進的な「補給型施肥技術」の普及を推進。
- 実証圃の設置による理解促進と、研修会の開催による人材育成により、補給型施肥技術や土壤物理性改善技術の導入を推進。

### 普及活動の成果

#### 1 農業所得の向上と環境保全に貢献

- 肥料コストの低減による農業所得の向上と、土壤養分の過剰蓄積防止による環境保全に貢献。

#### 2 主要品目の土壤化学性・物理性改善に貢献

- アンケート結果と土壤調査結果から、高単収・低単収につながる要因を解明し、産地にフィードバック。

##### ①ねぎ

下層土の化学性改良が高単収に貢献

### 主な普及活動

#### 1 土壤の化学性・物理性実態と、生育・収量・品質への影響把握

- 各作目専門チームと連携して、高単収や低単収の事例アンケートと土壤調査結果を比較解析・水稲、大豆、ほうれんそう、ねぎ、トマト、ピーマン

#### 2 土壤化学性・物理性の改善実証

- 暗渠施工などの物理性改善、不足養分補給などの化学性改善。
- 養分蓄積圃場での補給型施肥等実証結果を各産地(生産部会)にフィードバック。減収不安を払拭。

#### 3 適正施肥研修会等の開催

- 農業者が圃場の土壤養分蓄積状態を把握し、自ら適正施肥を実践できるよう、県域Gが先導して、簡易土壤分析、土壤分析結果の読み方や施肥設計について指導。

### 関係機関との連携

#### 1 実証圃

- 各品目担当の普及員・JAと連携して運営。
- 肥料メーカーと共同開発した「L型肥料」(低リン酸・低カリ)および県研究センターが開発した低コスト肥料(鶏ふん入り)を使用。

#### 2 研修会

- 農業者の他に、すでに県が認定している「施肥設計アドバイザー\*」も参加誘導。
- 講師は県域G、県農研センター、全農が担当。

\*：農業者の施肥管理技術向上を図るための県独自認定資格で、地域の農業者への助言・指導の役割を担う。

### 普及活動の特徴

- 県域Gが関係機関と連携し、地域のニーズにマッチした新肥料を開発。
- 県農研センター新開発の鶏ふん入り肥料(L型肥料)により施肥コストを低減。
- 適正施肥の理論の研修と実際の栽培実証を確認することで、生産者をレベルアップ。

